

新大橋・鍛冶橋だより Vol.11

発行：島根県松江県土整備事務所 土木工務第一部 土木工務第二課

新大橋工区 第1期工事（伊勢宮町側）が完了しました

令和7年6月より伊勢宮町北側にて行っていた、新大橋工区 第1期工事が12月中旬に完了しました。

第1期工事では、港湾緑地帯の樹木伐採と軟弱地盤改良工事を行いました。



施工完了の様子(撮影 R7.12.2)



新大橋工区 第2期工事（和多見町側）が始まります

施工計画作成中 令和7年12月施工業者決定 松江土建株式会社

令和7年12月に、新大橋工区 第2期工事（和多見町側）の施工業者が松江土建株式会社に決定しました。令和8年2月中旬からの工事着手に向け、工事のスケジュールや施工方法等の計画を作成しています。第2期工事では樹木伐採、構造物撤去、軟弱地盤改良工事を行います。

施工計画が決まり次第、地元説明会を開催し、工事内容や通行規制等について説明を行う予定です。

令和8年春頃よりアンダーパスは通行止めになります

令和8年 新大橋工区事業スケジュール

	R7 12月	R8 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新大橋 第2期工事		施工計画検討 ↔ 住民説明会	構造物撤去工事 ↔	樹木伐採 ×	地盤改良工事 →		
その他 関連事業						東本町4丁目 埋蔵文化財本調査 (詳しくは裏面へ) ↔	

※スケジュールは予定であり、今後変更となる場合があります。

令和7年
5月1日・2日 東本町4丁目で埋蔵文化財の試掘調査が行われました

調査の目的

新大橋工区事業予定地内の東本町4丁目は、江戸時代の絵図に「武家地」や「町人地」として描かれており、地域の歴史を知る上で貴重な場所です。

そのため、遺跡があるかどうかを確認することを目的に、令和7年5月1日と2日に、松江市埋蔵文化財調査課による試掘調査が行われました。その結果、遺構や出土品が見つかりましたので、出土品の一部を紹介します。



今回の試掘調査で出土した埋蔵文化財

今回見つかった町屋の礎石は18世紀末～19世紀頃のものと考えられ、南北方向に並んでいることから、東西に流れる大橋川と直角になるように細長い敷地の中に町屋の建物が配置されていたことが分かりました。これにより、これまでの絵図には描かれていたなかった建物の配置が明らかになりました。



町屋の建物礎石

江戸時代中頃の磁器



出土した陶磁器は、江戸時代中頃のもので、碗や皿等の食器が多く見つかりました。これらは、町屋に暮らしていた人々が、日常生活の中で使っていた食器と考えられます。見つかった陶磁器の多くは、九州の佐賀県で生産された肥前陶磁器で、唐津焼や伊万里焼が大半を占めていることが特徴です。

出土した鞴（ふいご）の羽口は、江戸時代中頃のもので、火をおこすために空気を送る道具に取り付けられた管の一部です。これが見つかったことから、この場所の近くに鍛冶場があり、職人や工人たちが暮らしていたと考えられます。



鉄鍛冶関係の遺物: 鞘(ふいご)の羽口



出土した貝類

町屋に住んでいる人々が食べていたとされる貝類が発見されました。この貝類にはサザエやハマグリ、アワビやシジミなどがあり、日本海の沿岸や宍道湖・中海で獲れたものが松江城下に流通していたことが想定されます。

今回の試掘調査の結果、江戸時代の遺跡が見つかったため「松江城下町遺跡（東本町4丁目1外）」として取り扱うことになりました。

令和8年度に埋蔵文化財の本調査が行われます。
本調査を実施する際は、別途お知らせいたします。

今回お示しした内容については、島根県松江県土整備事務所のホームページに掲載しています。

https://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_kendo/

お問い合わせ先

島根県松江県土整備事務所 土木工務第一部 土木工務第二課 ☎0852-32-5729
松江市 都市整備部 大橋川治水・国県事業推進課 ☎0852-55-5385

